

# 患者の命守るスピード

## フライトドクター

【岡山市・京山中1年、飯田真菜】

空を飛ぶ、赤いラインの入ったドクターヘリを見て憧れを感じ、川崎医科大学付属病院倉敷市松島)の高度救命救急センター副部長でフライトドクターの宮本聡美医師を取材した。

同病院は2001年、全国に先駆けてドクターヘリを本格導入した。また特定機能病院として最新鋭の設備を備え、高度なチーム医療を提供している。

ドクターヘリは医療行為ができる医師を早く現地に運ぶ、患者を早く病院に運ぶといった重要な役割を担っている。岡山県の端でもヘリなら25分以内で到着でき、救急車よりも圧倒的に早い。「スピードがあることで、患者の命を守ることができる」と言う。ドクターヘリで向かったことで子どもを救うことができた経験について話してくれた。

「今は慣れて大丈夫だが、最初の頃は揺れで酔わないように食事を控えていた」と聞いた。搭乗時はプロペラなどの音が大きいので、ヘッドホンを使って会話するそうだ。

責任の重い仕事の中で、誠実に人と向き合う宮本医師の笑顔が印象に残った。私が今やるべきことを聞くと「手を抜かず自分できちんと力をつけること。仲間を大切に、勉強を頑張るね」と励ましてくださった。



川崎医科大学付属病院で待機するドクターヘリの前で宮本聡美医師(左)の話を聞く子ども記者の飯田真菜さん